

実施体制



ファシリテーション、事務局

事務局、運営

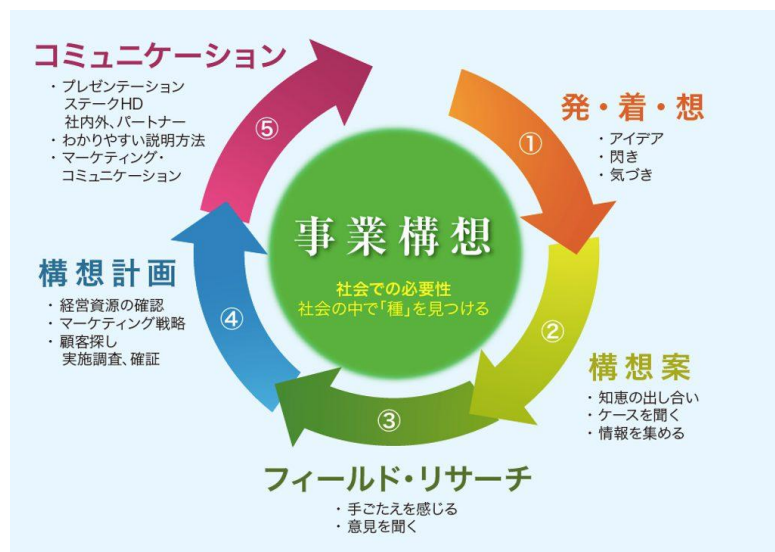
山陰未来創造プロジェクト研究

- ・ 教員陣：担当教授、多分野のゲスト講師
- ・ 参加者：地元企業（10～15名）
- ・ 事務局：Chukaiトライセクター・ラボ、事業構想大学院大学

【研究員輩出企業】

- ・ 研究員一人当たり120万円を支払い参加。
- ・ ただし、厚生労働省の人材開発支援助成金を活用すれば最大100万円の補助を受けることが可能。
- ・ 人的ネットワークを広げ、事業を構想し実行できるスキルを身につけた人材が育成される。
- ・ 一年間の成果として新規事業の事業計画書が完成。

カリキュラム



- 事業構想の流れである「事業構想サイクル」に基づき、それぞれの段階で求められる知識や技能を実践的に修得。
- ・ 多様な観点(キーワード)で事業構想を捉え、ビジネスや社会課題への理解と洞察を深化。

【キーワード】

経済／経営／財務・会計・経理／法律／産業研究／組織／マネジメント・リーダーシップ／商品開発／統計／プレゼンテーション／広告・宣伝／IT／経営戦略／クリエイティビティ など。

【グループワーク風景】



令和6年度は8社11名が参加し、自身の業種と異なる業種の研究員同士で3つのグループをつくり、事業構想を行った。成果物として、空き家を事前に防ぐ事業や、空き家を農業などに活用する事業、耕作放棄地に繁殖するセイタカアワダチソウの活用事業の3事業が生まれた。令和7年度は、県内企業10社より12名が参加する。

【東京での視察】 場所：(株)日建設計PYNT



一年間のカリキュラムでは、地域内でのフィールドリサーチやヒアリングなどにより地域課題に対する理解を深めるだけでなく、事業構想大学院大学の東京校でゲスト講師による講義や、東京都での先進事例視察を行うことで、地域課題解決のための視野・知見を広げる機会を設けている。

【最終成果報告会風景】



研究成果のアウトプットの間として、中間報告会・最終成果報告会を実施した。各報告会には、研究員の所属企業の代表者や、地域の金融機関・行政の方、フィールドリサーチやヒアリングにご協力いただいた方にご参加いただいた。令和7年度の回では、これらの参加者に加え、令和6年度の卒業生にもオブザーバーとして中間報告会・最終成果報告会に参加していただく予定である。